

1.4 津波に対する心得、日ごろの備え

《津波に対する心得》

【一般偏】

- (1) 強い地震（震度4程度以上）の揺れ又は弱い地震でも長い間ゆっくりとした揺れを感じたときは、直ちに海浜から離れ、急いで安全な場所に避難する。
- (2) 地震を感じなくても、津波警報が発表されたときは、直ちに海浜から離れ、急いで安全な場所に避難する。
- (3) 正しい情報をラジオ、テレビ、広報車等を通じて入手する。
- (4) 津波注意報でも海水浴や磯釣りは危険なので行わない。
- (5) 津波は繰り返し襲ってくるので、警報や注意報が解除されるまでは気を緩めない。
- (6) 普段から自分の避難場所を確認する。

【船舶偏】

- (1) 強い地震（震度4程度以上）を感じたとき又は弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、直ちに港外退避する。
- (2) 地震を感じなくても、津波警報、注意報が発表されたら、すぐ港外退避する。
- (3) 正しい情報をラジオ、テレビ、無線などを通じて入手する。
- (4) 港外退避できない小型船は、高い所に引き上げて固縛するなど最善の措置をとる。
- (5) 津波は繰り返し襲ってくるので、警報、注意報解除まで気をゆるめない。

(注) 港外：水深の深い、広い海域港外退避、小型船の引き上げ等は、時間的余裕がある場合のみ行う。

《日ごろの備え》

- (1) 津波の前には地震がある。わが家の耐震化、家具の落下・転倒の防止対策をする。
- (2) 市町村が作成する津波ハザードマップ等で、避難場所・避難方法を確認しておく。
- (3) 家族ばらばらで避難する場合があることを想定し、あらかじめ家族で話し合っておく。
 - ① 仕事や学校などで家族が離れた場所にいた場合でも、各々が自分の命を守ることを優先して避難行動をとる。
 - ② 災害用伝言ダイヤル171や災害用伝言板を活用するなど、家族の連絡手段や集合場所を決めておく。
- (4) 高齢者等の災害時要援護者の避難方法を近隣住民等と確認する。
- (5) 避難時にすぐ持ち出せるように、非常食・飲料水、携帯ラジオ、貴重品、救急医療品、懐中電灯などの非常持出品をリュックにつめ、準備しておく。
- (6) 発災時にとるべき行動を身につけるため、避難訓練に参加する。
- (7) 地震・津波の正しい知識を身につける。